

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2015年12月25日

[テーマ] 商店や駅に光の装飾—手作りで冬の名所に—

10月末のハロウィーンが終わった途端、商業施設はクリスマスモードに突入する。12月に入ると、商業施設でなくてもさまざまな装飾が増え、ムードは一段と高まる。そうした中で近年急速な広がりをみせてきたのはイルミネーションである。

この季節にイベントとしてイルミネーションを楽しむようになったのは私が学生のころだから、かなり前である。街ではそこに立ち並ぶ商店が、住宅街ではそこに住む住民が、沿道や住居の周囲を飾り付ける。当初は珍しさゆえに見物客が殺到し、見るのに何時間も並ぶイベントもあった。交通渋滞やごみ投棄といった問題から中止に追い込まれることもあった。

年月を経て、イルミネーションは全国に広がり、それぞれの地域に定着した。沿道などの装飾にとどまらず、観光名所として大規模に展開されることも増えている。大規模なイベントに限っても、数え切れないほどだ。このように数が増えたことには、発光ダイオード(LED)の普及が大きいだろう。高出力LEDの価格が劇的に下がり、何十万、何百万の華やかな光を競うことが可能になった。

カップルたちの中に入っていくのがためらわれたが、県の観光情報誌「ググっとぐんま」を見ていてどうしても気になったので、思い切って家族を連れて県内名所にある人気スポットに出かけてみた。光を集め、作り出された夜の風景。最近のイルミネーションの圧倒的な迫りに驚いた。そこには、カップルとともに多くの家族連れの姿があり、安心した。

出掛けてみたのは光の数を競う人気スポットだけではない。先週末は「上毛電鉄」の大胡駅で、クリスマスイブの昨夜は新町駅前で、温かみのある光を家族とともに楽しんだ。LEDの価格低下で、地域では手作りの趣向を凝らした飾り付けが増えている。小規模ながら、そこに働く人、そこに住む人が作り上げたイルミネーション。普段目立たない場所がそうした電飾によって飾られるのは素晴らしい。

そういえば、イルミネーションを楽しむことができる期間は、以前に比べて長くなったようだ。電球より電気代が安くなったからか。12月だけでなく、1月に入ってもまだまだ楽しめる。この年末年始、皆さんも冬の夜の散歩を楽しんでみませんか。

あなたの「理想のクリスマスデート」は（複数回答）

自宅でまったり	34.1%
イルミネーション	33.8%
すてきなレストラン	31.3%
豪華なホテルに宿泊	16.1%
温泉	14.5%
テーマパークや遊園地	11.1%
ドライブ	9.9%
その他	0.9%
クリスマスにはデートをしたくない	24.1%

（出所）マクロミル「年末年始の過ごし方に関する調査 2015～2016」

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕